

技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター冬季号〈第38号〉(平成10年12月15日発行)

巻頭言

ベテラン技術士万歳

笠木 直行 (九州技術士センター副会長)
(福岡・建設)

それにしても身の回りにいるベテラン技術士先生たちの元気なこと。子供のころ、おじいちゃんが孫を背中に負ぶってねんねこを着て、子守りをしている光景をよく目にしたものだ。昔は50才を過ぎると隠居をしていた。隠居とは、職をやめ、家長の地位をゆずり静かにすむこと、世間のわずらわしさから離れて引込んで暮らすことである。何もすることがなくなったから、孫の守りを専業としたのである。当時の50台は、子供の目から見て本当に爺さんという印象であった。

ところが技術士資格を持って活躍している現在の先生方を見ると皆さんお元気そのもの。60台は鼻たれ小僧、70台で青壮年といった様子である。老いぼれて心身の働きがにぶくなることを耄碌^{もろく}というが、この人たちには耄碌などという字は辞書にはないようである。

思うに、技術士は常に問題意識を持っているからではなかろうか。その心がまえは、○常に危機感を持つ ○何事にも好奇心を持つ ○すべてに疑問を抱く ○マナーにひたりきらない ○物事の本質を見通す ○現実を冷静に見詰める ○問題解決に前向きに取り組む からである。

問題意識とは、問題になるような点はないだろうかといった分別をする心の働きである。様々な変化に対応し、適応できるよう問題意識を持ちつづけているから、耄碌などするひまもないのである。

日本は世界一の長寿国になって、その平均寿命を年々延ばしている。しかし、心身共に健康であってこそ、長寿万歳と叫ぶことができるのではなかろうか。人の介護を受けながら、ベッドに横たわる生活をつづける長生は大変である。その点ベテラン技術士の皆さん元気印でたのもし。どうも元気の源泉は、問題意識を持って頭脳を使うことにあるらしい。

先月の新聞のコラム欄「四季」に老人賛歌という記事が載っていた。「太陽の季節」を謳歌していたころ、老いは遠い世界のことだった。多くの人々が愕然と老いを実感するのは65才、高令者向けの事業紹介のシルバー手帳(福岡市民の場合)が市役所から送られてきたときという。……老人力(筑摩書房)は物忘れ、繰り言、ため息など従来、耄碌として忌避されてきた現象に潜む未知の力と定義する。……グレン飛行士の宇宙的な老人力もすごい。しかし快挙のためには知力、体力、気力の横溢が必要だ……」とあって、老人力賛歌を作って大合唱しようというのだ。

60台の鼻たれ小僧にシルバー手帳は似合わない(ただし、いろいろ恩恵を受けるのは有難い?) パスポート片手に海外を飛び回っているベテラン技術士がいるが、この方が技術士にお似合いである。

経済の国際化にともなって、技術士資格の国際相互承認の動きが急速に進んでいるが、海外での活躍の場が広がり、ベテラン技術士の出番も多くなるだろう。元気印のベテラン技術士万歳。

1 人でも多くの方の入会をお勧め下さい

私の提言

雑 感

齊藤 健男（九州支部試験管理委員長）
（福岡・建設）

与えられた標題には、いささか外れる処があるとおもわれるが、つれづれに感じていることを述べてみたい。

・この処、毎年の技術士試験・福岡試験会場における試験監督を含む一連の管理業務に、支部の事務局と共に、試験管理委員会の一人として携わっている。支部及び技術士センター会員の技術士の方がたには、福岡市内と近隣市町村各位の方を主に、試験会場設営と試験監督員の任務に協力いただくように要請し、みなさまに気持ちよく承諾していただき、管理業務は大過なく遂行されている。このことは、当該業務へのご理解とご協力の賜物であると、常づね感謝すると同時に、一種の共通する連帯感とでも表現できるものが、支部のなかに伝統的に育まれているのではないかと嬉しい気持ちになる。

ここで申しあげたいことは、試験監督業務への要請を各位に行う場合に、欠礼と配慮のないことを行ってきたのではないかと、思いついたことであった。各位は何等かの形で組織体のなかにあって、日常の業務を遂行しておられるのに、直接的に各位に要請するスタイルをとってきた。やはり先ず組織体に技術士試験の意義と重要性をご説明したうえで、試験監督員派遣の要請をすべきではないか、そのステップを踏むことによって、当該組織体のなかにおられる技術士の方がたも、対応しやすくなる方も多いのではないかと、気付いた処である。

現下の社会経済情勢は厳しいなかにあることへ配慮するとき、たとえば有給休暇等を使用して対処されるにせよ、明白で有意な有休であることが大切なことではないかと思つた次第である。いずれ支部長にも図つたうえで実施したいと考えている。また、些細なことかも知れないが、技術士会へのご理解と認識を深めていただくことにも連動しよう。

・支部の活動に対し、積極的に参加をしていない小生の現況では、少々面映ゆい処があるものの、敢えて今後の支部活動への思いを述べてみたい。

当支部には、Y. C. と略称で呼ばれている比較的に若年層代・技術士の方がたの活動があるが、各年代層が混在する形の活動場面が少いような気がしている。結果的に支部活動にうとい現況からすれば、皮相な見方かも知れない懸念はあるものの、思ったことを継続して述べることにする。誤った処があればどうかお許しをいただきたい。

とくに申しあげたいことは、若年層代の技術士の支部活動への参加が少い要因を考えてみると、所属される組織体のなかにあって、生産性の高い業務の中枢的またはリーダー的存在となっておられ、仲なか支部活動への参加に余裕がないと推察される。勿論、日日のなかで支部活動を中心に据えて考える等、とてもできない相談である。ここでは支部活動がより活性化していくための方策には、どんなものがあるかという視点からの話しである。

誠に僭越なことではあるが、支部の諸活動のなかに、『生産性』を導入する場が創造できないのか、支部にも、また、現実に活動される技術士の方にも、さらに言及すると当該技術士が所属される組織体にも、その『生産性』の配分が適切に行われれば、関係者が非常に参加・活動がより容易になるのではないかとおもう。所謂、ボランティアの限界にどう対応していくかにあるような気がする。具体化には、まだまだ多くの意見集約とシステム構築そして業務委託先の見通し等もあり、時間と努力を必要とする。最新の技術情報と実務処理にたけた若い技術士の方がたが、公私共に動きやすい環境を創造していくことも、支部や技術士センターの活性化の原動力になっていくものと考えらる処である。

本部近況

理事会報告（平成10年11月10日分）

技術士法の改正法案提出来年秋か 再来年春に順延か・技術士の相互承認も同様か？

理事 矢野 友厚

技術士法の改正問題

科学技術庁・建設省・日本技術士会の三者が一体となって進めている。本年10月中旬、最終委員会を開き、国内的問題は片付いた。技術士会が事務局を作る。

技術士法改正の提案は、早くて来年秋の臨時国会、又は再来年の通常国会となる見通し。

国内問題として残された最大の案件は、更新制度を実務的にどう処理するかである。言うは易く大変むづかしい。今後つめて行くが、3年間に何らかの更新をしなければならぬ義務がある。＜理事の中からソナノヤメテシマエの声あり＞

APECエンジニア相互承認プロジェクト3第1回運営委報告

1998年11月5～6日、シドニーに於て、オーストラリア、カナダ、中国、インドネシア、日本、韓国、

マレーシア、ニュージーランド、フィリッピン、シンガポール、タイ、ベトナム、香港（オブザーバー）の13エコノミー参加（合計37名）で行われた。

先行して相互承認とする技術分野を下記の9部門とし各国の希望を聞いた。

1. Civil
2. Structural
3. Geotechnical
4. Environmental
5. Mechanical
6. Electrical
7. Industrial
8. Mining
9. Chemical

日本としては、CivilとBuildingを考えている。

今後のスケジュール

○1999年4/5月；調整委員会発足までの移行期間としてエキスパート委員会の会合

○1999年8/9月；第2回運営委員会・第1回調整委員会（日本での開催を提案）

○2000年2/3月；業務免許管轄官庁とのワークショップ

行社会合報告

第1回地域産官学と技術士合同セミナー開催さる

九州支部事業委員長 甲斐 忠義（福岡・建設）

（社）日本技術士会主催「第1回地域産官学と技術士合同セミナー」が、本部吉武副会長（会長代行）を迎えて盛会のうちに平成10年11月13日（金）博多パークホテルで開催された。参加者約90名。なおこのセミナー開催に当っては、通産省九州通産局、建設省九州地方建設局、福岡県の後援、並びに福岡県産業・科学技術振興財団、中小企業診断士協会、発明協会、日刊工業新聞社西部支社の協賛をいただい

ている。

基調講演では、講師として迎えた通産省九州通産局産業部長の菅沼義夫氏が「経済フロンティアを拡大する新たな産業技術政策」と題して講演された。講演内容の骨子は次のようなものである。

今経済のグローバル化が急速に進展しています。企業は、国境を超え経済的に最も合理的な場

所に立地し、企業が国を選ぶ時代が到来しています。こうした中で産業や雇用の空洞化の問題に適切に対応し、良質な雇用機会を確保していくためには、既存産業の高付加価値化を含め新規産業の創出が鍵になっています。また、本格的な高齢化社会を迎えわが国の経済活力を維持していくためにも、新産業創出は不可欠と考えられます。

製造業は、91年から96年までの5年間に、120万人もの雇用の減少が見られています。

政府は平成8年に経済行動計画を策定し、平成9年5月に行動計画を閣議決定し、12月にフォローアップしています。特に医療福祉関連産業、電子・情報・通信分野、新材料分野、エネルギー・環境分野、機械加工分野、バイオテクノロジー分野、生活・文化関連分野などの新規産業分野の着実な発展を図ることとしています。

活発な創出と産業化を加速するために資金面、人材面、技術面の横断的な環境整備を行います。事業興しを行う企業に対して予算・規制緩和、法律改定など、いろいろなツールを使って政府が支援します。

産学官の総合的推進は、科学技術庁の「科学技術基本計画H8, 7」や、文部省の「教育改革プログラムH9, 8」の中でも重要性が指摘されています。大学、国立研究機関に蓄積された知的資源を活用し、新規産業創出を図るため、産学官連携による研究開発およびその成果の産業化、ならびに人材の育成・活用等を図ることが必要です。

このため大学等で生じた研究成果の産業界への技術移転を促進する「大学等における技術に関する研究成果の民間事業者への移転の促進に関する法律」をつくり、技術移転機関（テクノロジー・ライセンシング・オーガナイゼーションTLO）を支援する計画が進められています。TLOは、大学の技術シーズ（芽）を民間で利用出来るかどうか評価し、特許化し、それを売り出す役目をします。（以上、筆者が菅沼部長からいただいた講演集からの抜粋）

つづいて基調報告として、福岡県産業・科学技術振興財団研究開発部長大田修明氏は、当財団が産学官の研究交流と連繋を図りながら進める新産業創出のための研究開発支援事業について説明された。

つづくパネルディスカッションでは、テーマを「中小企業の新技術の創造と技術士の役割」として進めた。コーディネーターは九州支部顧問の黒瀬正行氏。氏はかねてより、長崎県の中小企業のシーズと他県企業のニーズとのマッチングに取り組むなど、この種の問題に造詣が深い。

パネリストは、技術士の川崎軍治氏、大分大学教授の武内隆氏（教授は技術士会会員でもある）ベンチャー支援を受け企業成長中の水処理のサワテック（株）専務取締役沢田善行氏、福岡県商工部新産業・技術振興課技術補佐松家繁氏、技術士山谷三郎氏、建設省九州技術事務所長村松正明氏、日刊工業新聞社西部支社長岸本信夫氏の方々である。

やりとりの中から紹介すると、武内教授の話では、大学教授に課せられるものは論文数である。特に中小企業とはつきあいはないが大企業とは基礎的研究の分野でつきあいがある。中小企業の新技術創造などの支援には守秘義務のある技術士が活躍すべきではないか。山谷三郎氏からは、技術士は相談を受けたら必ず答えを出すことにより企業の信頼を得なければならない。今後技術士会でニーズを把握しグループ化して対応していく必要がある。など提言がなされた。建設省の村松所長は、建設省の進める「コスト縮減・品質確保・安全性等」効率的な建設事業の推進のための新技術活用パイロット事業について説明があった。建設産業分野においては建設省も積極的な新技術・新工法の発掘を支援している。

パネルディスカッション終了後交流会を開催。講師を交じて各専門分野の技術士先生方の交流風景はいつもの通り盛況であった。

さて今回のセミナーを企画をした者から反省をして見ると、今回のセミナーに中小企業からの参加者がなかったことが残念であった。今後は中小企業の社長さん達から「技術士セミナーはためになるから是非聞きに行こう」といわれるまでにならねばならないと思う次第である。

~~~~~  
来年の2月24日（水）～25日（木）に、九州支部担当によって『西日本技術士研究・業績発表年次大会』を北九州市で開催します。技術士の自己PRのチャンスです。論文を1月中旬まで受付けていますので、事務局まで御連絡下さい。  
~~~~~


部会報告

第1部会 技術研修会

(10年度第1回)

第1部会長 山谷 三郎(福岡・機械)

9月25日(金)博多第一ホテル会議室に於て、他部会を含む24名の多数参加者を得、第1部会(機械・電気電子・船舶・航空・宇宙)の本年第1回技術研修会を開催しました。研修会は13時10分より17時まで。先ず部行事他技術士の方々により、11月27日に実施予定の福岡市港湾局「ISLAND-CITY」の研修見学会案内等について、1番目の講演は、機械部門技術士の久保田英士先生による「家庭ゴミ焼却炉について」の題名でした。

講演資料は55頁と附6頁に亘る貴重な重厚なものであり、その内容要旨は、特に家庭や病院等小規模事業で使われている簡易型で低温ゴミ焼却炉の研究開発と、焼却炉より発生する有害物質の人体への許容濃度に関する、長崎県下での実態調査に関するものでした。先ず焼却炉の燃焼方式型式分類による比較特性に始まり、可燃焼却物質中のプラスチック中の塩素が酸素と結合すると『ダイオキシン』の発生となる。その発生量は体重1kg当り100万分の1g(1 μ g)が単位となる極めて微量でも毒性の強いものといわれています。従ってダイオキシンを発生排出しない燃焼方式が課題であり、その対策として、800℃以上の高温燃焼と除塵装置の温度を200℃以下とすることが効果的との事でした。その他環境アセスメント、ダイオキシン除去機能等多岐にわたっての御講演でした。

2番目の講演は、電気電子部門技術士の服部弘政先生による「パソコン計装システムについて」の題名で、パソコンによる投影拡大映像装置を利用した説明方式で、鮮明美麗な画面でした。内容要旨は、パソコンベースの計装システムの信頼性が近年高まったこと、更には低価格で、多様なアプリケーションが構築が出来るようになったことが、着実な発展を見ている要因であります。パソコン計装システムは、パソコン(簡易)分配制御システム(DCS)と呼ばれて、プラントの監視操作はパソコンが担当し、制御はプログラム式論理制御(PLC)や単一ループ制御にて分担する方式構成となっていて、現在市販さ

れているパソコンDCSはメーカー系とオープン系の2種に別れ、それぞれに特徴があるとのこと。パソコン計装について難解な点を画像により解り易く解説していただきました。

以上2件の研究発表は現在時代を反映した有意義なものでした。その後、地下食堂で希望者による簡易な懇親会を持ち、和やかな雰囲気にて終了しました。(平成10・10・15記)

北九州での第3部会

第3部会長 本田 整(北九州・金属)

10月16日に北九州技術士会との協賛による第3部会を北九州テクノセンターで開催した。当日は、台風前の雨の日で会員の参加が危ぶまれたが、総数17名の出席者があり、第3部会からも5名の参加者があった。

開会に先立ち、部会活動を活性化するには、例えば第1部会に第3部会員が入会する、あるいはその逆の相互乗り入れを行なって、新しい環境作りが今後の課題ではなかろうかという話がなされた。この件は、新設されるホームページに掲載して呼び掛けを行なうという結論になった。

第3部会の講演は、本田が『高温高压機器用構造材料について』という演題で講演した。講演は、高温高压機器の製作や指導に直接携わる技術士は少ないところから、全般的な解説的なものとし、構造材料の許容応力の定め方、圧力容器の肉厚の計算法、高温高压弁を例にした構造材料の選定基準、および具体的な構造材料の例と、その許容応力が示されている規格類の説明を行なった。

しかし、質疑応答では、クリープ・ラプチャー強度の推定式であるランソン・ミラーパラメータの根拠、窒化層の深さと外注先、鋳鋼の製造性の問題、海外の材料や加工の良否、クリープと疲労の相互作用の中で、圧力容器はどちらの比率の方が大きいのか、あるいは高速増殖炉用弁や高温ガス炉用弁の材料や構造の問題などの質問が続出した。

各技術士の質の高さと関心の多様さにいささか驚いた次第である。

冒頭にも述べたように、異なる分野の技術士が集まると、思いもかけない技術や業務が生まれる可能性がある。各部会間での人の交流は、今後、ますます重要となると思われる。

地域活動

I

鹿児島県技術士会創立10周年記念大会

鹿児島県活性化委員 新屋敷和明（建設）

その日の鹿児島の朝の空は、台風一過、雲一つない秋晴れであった。

今年7月の総会で10周年記念大会の実施が全会一致で決議されて以来、この日を迎えるにあたり、その準備に技術士会の多くの会員が参加し度重なる打合せの結果、10月2日当日を迎えることが出来たことは、関係者の一人として「ようやく」という感想であった。

10周年記念大会は午後4時から9時まで、鹿児島市内のホテルで、記念式典、記念講演、記念パーティの3部構成で挙行された。

記念式典は、鹿児島県土木部長、鹿児島市長（いずれも代理出席）及び日本技術士会九州支部役員など多数の来賓をお迎えし、会員を含めて100名ほどの出席者で始まった。

鹿児島県技術士会が34名の会員で創立され10年経た現在、115名の会員を有す会に成長した。これも

ひとえに関係各位のお陰であると謝意を述べ、これからも一層地域社会に貢献する技術士会を目指したい、と抱負を述べた黒岩会長の挨拶に始まり、来賓各位のご祝辞、多数の祝電の披露、そして満77歳以上の会員への名誉会員表彰授与と盛会裡に終了した。

引き続き、同会場で鹿児島大学原口泉先生の「薩摩藩の土木行政と文化について」の1時間余りの記念講演で、「変革期のリーダーは決死の覚悟が必要、Follow me」と江戸時代の薩摩藩の先人の技術足跡をたどりながら、現在の技術者にも通じる示唆に富んだ貴重なお話であった。

記念パーティは前会長の上野光夫氏の乾杯音頭で開会し、9時までの1時間半があっという間に過ぎ去ったなごやかな雰囲気での懇親会であった。

そして今、創立10周年記念大会を無事終え、次の10年への一步を踏み出した鹿児島県技術士会である。



記念式典

II

地元に着した技術士活動について

北九州地区技術士会 代表幹事 泉館 昭雄（北九州・電気電子）

1. はじめに

当技術士会は“技術士がその能力を十分に発揮して社会に貢献することを支援する技術士会”を目指し、“地方技術士会のモデルになろう”をモットーに以下の項目を重点に活動している。

- (1) 技術士の技術力充実・向上
- (2) 異種技術の融合、交流
- (3) 技術士の業務開拓
- (4) 技術士の価値観、倫理観形成
- (5) 技術士のPR
- (6) 会員増強

会員の技術報告、情報連絡、活動討議を主題に月一回、北九州テクノセンターで会合を持っている。

2. 北九州地区技術士会の会員の構成

* 専門分野別構成 (fig 1 参照) ; 19分野中13分野を比較的バランス良く擁している。

* 勤務形態別構成 (fig 2 参照) ; 数としては、企業内技術士が一番多く、次が技術士事務所開設、コンサル会社経営者。技術士事務所開設、コンサル会社経営者比率が、九州内他地区に比し多いのが特色である。

fig 1 専門分野別構成

No	専 門	人数	比率%	No	専 門	人数	比率%
1	建 設	37	30	8	衛 生	7	5
2	機 械	17	14	9	化 学	4	3
3	電気電子	16	13	10	情 報	3	2
4	金 属	11	9	11	農 業	2	2
5	水 道	10	8	12	資 源	1	1
6	経 営	8	6	13	環 境	1	1
7	応用理学	8	6				

技術士 116名
技術士補 9名
計 125名 (重複あり)

fig 2 勤務形態別構成

No	勤 務 形 態	人 数	比率%
1	技術士事務所開設 コンサル経営者	38	33
2	企業内技術士	61	52
3	公務員	9	8
4	大学、高専	6	4
5	その他	4	3

技術士 110名
技術士補 9名
計 119名

3. 地元に着した活動

例 □ ; 契約者

* 北九州市出資100%の会社、市技術行政実施主要部門	参加人数
中小企業事業団	~H11.2 1名
産業研究センター	* 医療・介護機器 企業創造ワーク ~H11.2 4
	* 産業 needs 大学の調査ワーク ~H11.2 1
北九州市経済局他	* CAD CAM 三次元応用 調査ワーク 都度
	* 海外プロジェクト 都度
	* 技術相談 都度
	* 開発支援制度対応 都度
	T S 会 (TECHNO SAPORT)
	* 中小企業技術相談 定期 21
	* 運営委員 1回/月 2
	* 北九州中小企業 技術調査 13
	1回/年
JICA	* 開発途上国技術者 受入れ研修 定期 10
	* 海外派遣 都度
日韓技術協力会	* 海外プロジェクト対応 都度
	* 韓国中小企業 技術研修 定期 10
北九州商工会議所	* 技術アドバイザー 2日/月 6
福岡県工業試験場	* 技術アドバイザー 12
福岡県企業振興公社	* エネルギー環境問題専門家 3
日本労働安全衛生コンサルタント会	* 労働安全コンサルタント常例 3
日本テクノマート	* 特許流通登録アドバイザー 2日/月 4
	* 特許要約 1

民間企業にむけた活動は、* 産学官連携研究開発、* 中小企業企業化・開発支援、研究開発フェーズビリティースタディー他、企業の課題解決、技術コンサルに関わっている。量的把握は困難。

会員への業務斡旋作業を試みている。

4. まとめ

北九州地区技術士会は、これまで月1回会合を持ち会員の技術報告、情報交換、あるべき姿を議論してきた。参加会員数は20~30名である。

北九州地域にねざした技術士の活動は、例えば商工会議所技術アドバイザーや、北九州国際技術協力会コースリーダー・講師等のように、10年以上の継続的な活動実績がある。最近では、平成7年発足の北九州テクノセンター関連事業及び同センターに

属するTS会活動としての技術アドバイザー、並びに省庁関連機関ワークが増加傾向となっている。

公共関連は、報酬額が技術士標準報酬額に比し大幅に低い。これは今後の検討課題である。

他方民間企業を対象とする技術士活動は、開発支援、課題解決、技術コンサル対応に一定の成果を挙げているが、この業務の全体像がみえない。把握の仕方を検討する必要がある。案件一括受注により、技術士標準報酬で対応できているケースもあるが、人・日換算すると未達ケースが多いと推定される。成果報酬方式も採用されている。

これら諸活動が更に実質的な成果を上げ社会に貢献すべく、かつ技術士標準報酬額と実際との乖離縮小に向けて、技術士会としての組織的活動に期待されるところが多々ある。例えば、技術士による技術アドバイザー業務基本条件について、九州支部から北九州商工会議所に文書で申し入れている。

おおきくは、支部業務開発委員会を中心とした活動に期待するところ大である。

これまでの業務は、個別技術士対応がほとんどであった。これからは、チーム対応も視野にいれて対応することにより、“よりあるべき姿”に近づく方法が有効と考える。技術士会プロジェクトチーム「アイイー21」（リーダー宮田先生）、協同組合R&D北九州（理事長柴田先生）、株式会社インターコンサル（山崎先生）が当地区に生まれ、実働に入る体制となっている。

マルチメディア社会にあって、情報開示、広域活動の一層の深化を踏まえると、さらに技術士に課せられた社会的要請・課題を踏まえると地区活動は支部、本部活動と有機的に連動する事が当然の帰結となる。

技術士に相応しい活動と評価を求めて努めたい。

(H10.11.1)

声の広場

YCE福岡の活動について

YCE福岡運営委員長

諸藤 元信（福岡・建設）

YCE福岡（以下YCEと記述）は、Yong Consulting Engineersの略称で、戦後生まれの技術士の集まりです。技術士取得後、支部・センター主催の色々な行事会合に出席参加しても、平成2～3年当時は、なかなか若い人が気軽に話し合える場がありませんでした。

そこで、平成4年の1月に自己啓発・相互研鑽とプラス思考で人脈ネットワークを形成すべく、若手有志数名が発起人となってYCEが誕生したわけです。以来、定例会が2ヶ月に1回のペースで偶数月の第4水曜日に開催され、現在まで37回に及んでいます。そのための企画を奇数月の中旬に運営委員会と協議していく仕組みになっています。初代委員長の小川さん、2代目の真鍋さんを経て私が3代目を本年の4月から引き継いでおりますが、定例会は当初平均で10数名の参加者でしたが、今では25名前後であり、名簿登録者は現在84名になっており、まさ

に「継続は力なり」ではないでしょうか。

定例会の内容は、参加者の1分間スピーチ、ノウハウ、休憩時の名刺交換、ホットな話題、お知らせ・連絡コーナーを基本にして、18:30～21:00で終了し、近くの飲み屋で更にコミュニケーションをやって、官民間問わず技術士の仲間ということで胸襟を開いて楽しく親交を深めています。ホットな話題は、YCEのメンバーによる提供と、外部から招聘して異分野の動向を提供（年に2回程度）してもらうことで進めています。

会のお世話を役割分担してすることによって、定例会に積極的に参加することによって、お互いを良く知ることができ、自分達の職場では味わうことの出来ない、何か気持ちがホットするサロンのような受け皿にYCEがなっていると信じています。この人脈形成を糧にして、YCEのそれぞれの技術士が視点を更に上げて、日常業務や会の活動にどう活かして

いくつかが今後の課題となります。

YCEを卒業された方が中心になって、50代でMCE福岡（ミドル）を結成しようじゃないかという事が話に上がってきています。

だいたいにおいて40代は中堅現役として上司が存

在して活動の自由が効かないのが実態と思いますが、50代は支店長クラスや部長クラスのラインの長になっている方が相対的に多くなっているはずですので、MCE福岡を結成しての50代の活動が今から楽しみに待たれるところです。

私の技術士感

(社)日本技術士会プロジェクトチーム熊本技術センター

吉田 紘彬（熊本・応用理学）

若いつもりですが、肉体年齢は既に57才。決してすまいと思っていた若い時の自慢話がつい出てしまうのが、年をとった証拠でしょうか。技術士の試験を前にした若い方から受験のための心得を聞かれる時、何時も最初に「受験勉強は必要ないですよ」と答えて過去の自慢話に入る訳です。

昭和41～49年、当時山陽新幹線の調査・工事が盛んで、徳山～岩国間の樋口山トンネルでは調査・ディープウェル設計・施工・管理を一貫して行い、雑誌「下工」にレポートを掲載していただいたのが技術士受験のきっかけでした。「日経産業新聞」・「地質ニュース」・「土と基礎」は欠かさず目を通し、農政の山本先生・通産の村下先生・国鉄の石井先生には直接の教えを受け、受験の頃には、「誰か私に地下水の事を聞いてくれないか、そこで経験した発見や工夫に付いての話をしたくてしょうがない」状態であったと言うのが私の自慢話です。昭和49年に合格通知を受け取って、受験勉強が必要な一級土木施工管理技士試験の方がむしろ大変だ、と感じたものです。

既に亡くなられた当時国鉄下工幹線調査課長の原

田氏から、「技術士になったからと言って事務所に閉じこもってはいけない。何時でもお客さんの相談相手になれるよう尻軽でありなさい」という言葉を大事に“何時でも、何処へでも”をモットーとしながら日々の仕事を進めている今日です。

技術士法にある専門的応用能力はいろんな分野に広がるものです。グラウト注入・アンカー・土質工学・場所打ち杭・パイプルーフなど、どれもいろいろな問題を持っております。独立するとき専門学校で土質工学の教鞭をとり、土と石の違いから土の基本的性質を効果的に説明したつもりですが、唯我独尊だったかもしれません。

近年九州技術士センターの活性化委員を自分自身の活性化を第1の目的として引き受けていますが、技術士の大半は、既に活性化が進んでいると見え、仕事に追われて技術士会を振り向く時間がないようです。技術士センター活性化委員会の役割は、暇な技術士への情報源（技術部門・法律部門・関係ありそうな事業計画）として、データベースを備えたインターネットのように受け皿的存在が、期待される姿かと考える次第です。

運も実力のうち

(社)日本技術士会九州支部大分県協会

浜 光春（大分・建設）

今の会社に転職して3年目を迎え、往復60kmのドライブを楽しみながら、毎日の業務に取り組んでいる。

社屋は三重町にあるので、大分市街地を抜けて国道10号を南下、犬飼町から国道57号、国道326号を経由して通勤する。

さて、平成10年度の技術士筆記試験は、大分県関係で6名が合格し、受験申込書配布数109名分の5.5%であった。毎年受験者のお世話をする大分県協会としては、合格率の低さに少しがっかりした。

自分自身の体験を振り返ると、多分にラッキーな面に恵まれていたような気がするが、若干背水の陣

的なプレッシャーもあった。

①体験業務のテーマに恵まれた。

佐賀県にある一級河川について、数年間継続して蛇行部のショートカットの比較検討を実施し、受験のころには暫定工事が概成して部分的に通水を始めた段階であった。

②技術屋として危機意識を抱いていた。

当時の社内における自分自身の立場と、技術力のレベルに不安を持ち、何か切っ掛けを見つけて、一步前進したかった。

③多様な業務に従事することができた。

入社当初は、橋梁や樋管の構造設計をしたが、根気のいる内水排除の検討、河道計画流出解析、水資源開発、利水解析など、多くの調査、計画検討を体験できた。

④技術情報を図や表で示すことを学んだ。

大量の情報データを図や表にわかりやすくまとめ、

内容や目的、結果を客観的に判断し示すことを学んだ。

その他にも、中学から高校にかけて、童話や小説の全集もの、古事記や日本書紀などの本を読むことで、いろいろな表現の仕方を知ることができた。

また、高校のクラブ活動では新聞部にいたので、文章表現による意志伝達、文字の誤字脱字には常に配慮し、辞書で確認する習慣が身についたことも幸いした。

技術士になってからは、資格に恥じない仕事をするために、常に初心に返って取り組むことを心がけた。

新しい技術士が一人でも多く育つことを望みながら、受験者の健闘を願っている。

[H10. 11. 16(月)]

[㈱佐藤設計コンサルタント技術部長]

[建設部門 河川・砂防及び海岸]

知識の窓

環境ホルモン

川崎 軍治（佐賀・化学，衛生工学）

ホルモンとは？ 理化学辞典によれば、動植物の特定の器官や細胞で作られる生理的有機化合物で、産出される部位からかなり隔たった器官にその特異的な生理作用をあらわす。

1) 動物ホルモン、機能面から特定の標的器官を刺激したり、代謝に関係したりするものと、ホルモンの分泌を促進させるものとに大別でき、後者はいわゆる刺激ホルモンと呼ばれるもので、脳下垂体前葉ホルモン（性腺刺激ホルモン、成長ホルモン、副腎皮質刺激ホルモン）、脳下垂体後葉ホルモン、メラニン細胞刺激ホルモンなどがある。

また前者には、アドレナリン、インシュリン（膵臓から分泌され、血糖値低下作用を有する）、甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモンや昆虫の変態ホルモンなどがある。いずれもアミノ酸誘導体やたんぱく質などの含窒素からなる天然の化学物質である。このほかに

2) 植物ホルモンがある。

従って、いずれも極めて有用な化学物質で、これらのホルモンが不足すれば、成長ホルモンの場合に

は小人症、女性ホルモンの場合には女性器の発育異常、男性ホルモンの場合には男性器の発育異常、無精子症、睾丸性女性化症候群の原因になるといわれ、ホルモンはわれわれ人類の成長、健康の維持に極めて大切な化学物質である。

この有用なホルモンに対して主として人工的に合成された化学物質が外部から侵入して、これらの内分泌化学物質であるホルモンの作用に色々ないたずらをすると言われているのが現在問題になっている“いわゆる環境ホルモン”である。このようなわけで環境ホルモンという呼び方は、必ずしも適当でなく、ホルモン作用攪乱化学物質か、外国語の Endocrine Disrupting Chemicals の訳である外因性内分泌攪乱化学物質と呼ぶ人が多い。長くて呼びにくいので頭文字をとって EDC などと呼んでいる。

代表的なホルモンの構造と作用メカニズムを模式的に表したものが右頁の図である。

たとえば、エストロジェン（女性ホルモン）、アンドロジェン（男性ホルモン）が細胞膜を通して、細胞膜のレセプター（受け皿、ホルモンが鍵であれ

ば、鍵穴に相当する)にくっつき、それがDNAと結合し、遺伝子を活性化させ、その遺伝子情報がメッセンジャーRNAに転写され、そのRNAが目的のたん白質をつくって働くというプロセスである。

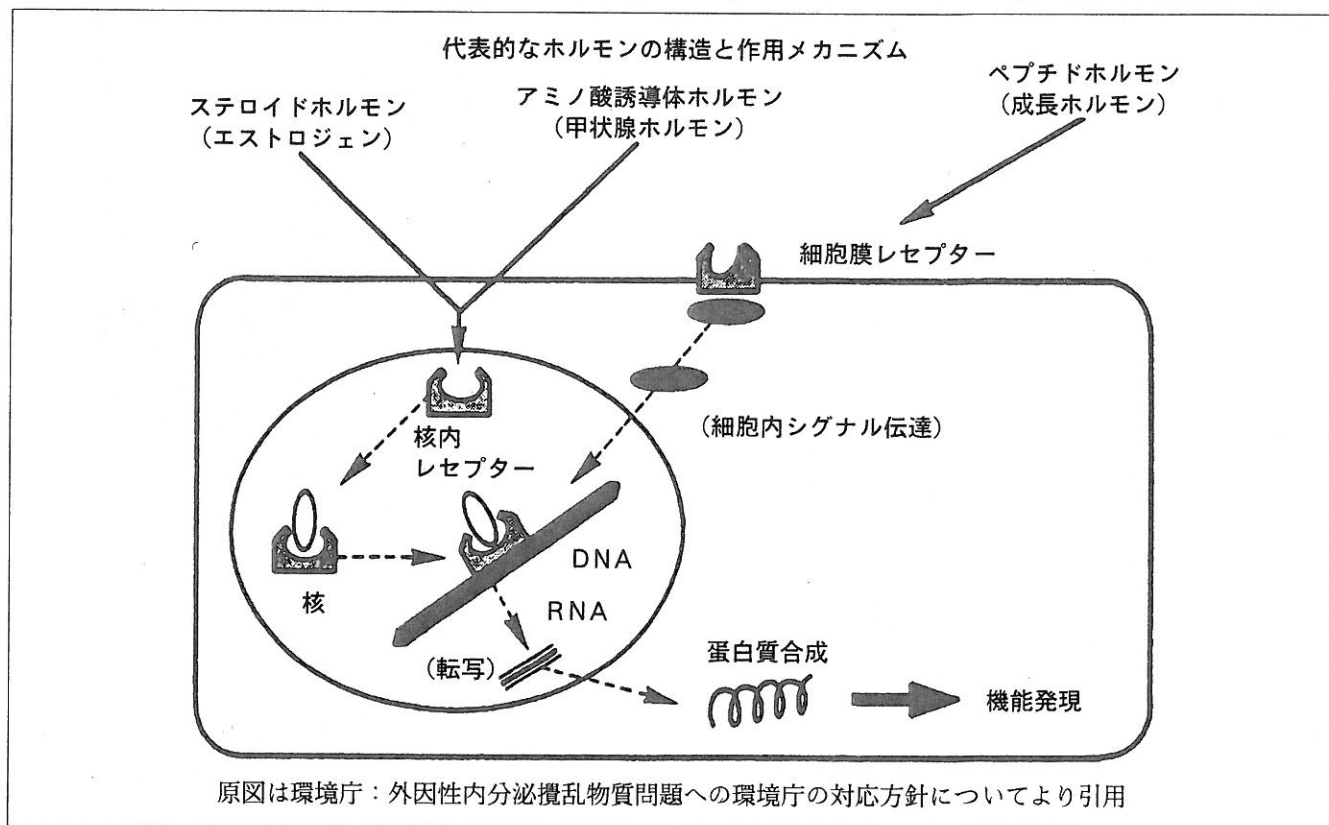
これに対して、外来の化学物質が横あいから侵入して、レセプターと勝手に結合して、誤った情報を流し、成長や育成のための設計図を狂わせているのが、外因性内分泌攪乱化学物質(環境ホルモン)というわけである。

日本近海に生息しているイボニシという貝は、有機スズ化合物により、雌が雄性化したり、個体数が減少しているといわれる。また、米国、フロリダ州

の湖に生息しているワニが、オスのペニスが矮小化して生殖能力をなくし、卵の孵化率が低下し、個体数が激減しているが、これの原因としてDDTなどがあげられている。これらの問題については、今のところデータ不足は否めない。国も積極的に攪乱作用があるとされる約70種類の化合物による汚染状況の調査と野生生物の病理調査を実施することになっている。やや過激反応の感無きにしもあらずであるが、われわれの種の存続にもかかわる問題であるだけに、重大な関心を持たざるを得ない。

参考資料:

1) シーア・コルボーン他“奪われし未来”他



気楽に原稿をお送り下さい

「技術士の声」原稿募集

「技術士だより」から、みなさんの気持ちが溢れて、生きいきした息吹きがほとぼしるようなしたいと思います。それでなんでも結構ですから、原稿をお送りください。例えば、

①なぜ技術士になったのか。

②技術士になって判ったこと(よかった点、不足に思うことetc.)

③技術士としてこんな仕事をやりとげた。

④いま、仕事のうえで悩んでいること。

⑤技術士の組織に望むこと。

その他にもいろいろあると思います。気軽にお気持ちを書いてみてください。800~900字程度。送り先は事務局。FAX (092)432-4442です。

5 Sで築こう。／ 磐石な経営基盤を

太田 能史（福岡・経営工学）

『5 Sとはなにか』と問えば、多くの会員から失笑をうけるかもしれない。それほど我が国では5 Sは知れ渡っている。もう古臭いと云われるかもしれない。しかし知っていることとやっていることは全く別なのである。

現に『ウチでも以前はやってたヨ』という企業は多い。このような企業はこれまでに色々の小集団活動をつまみ食いして継続していないはずである。ましてや『流行だからISO規格を取得したい。』とんでもない話である。5 Sはこのような類いの手法ではない。企業を経営していくならばその根底に5 Sが存在していることに気づいてほしい。

ここで、5 Sの概要をおさらいしておく。5 Sとは、『整理』『整頓』『清掃』『清潔』『躰』の頭文字を取ったものである。

『整理』とは、ある職場集団が受け持つテリトリーのなかで、まず要るものと要らないものを区分けする。要らないと思われるものは『処分』する。『処分』には、保管・売却・転用・返却・廃却などがある。

『整頓』とは、要るものを使える状態にしておき、直ちに取り出しやすく、元に戻しやすくすることである。もし所定の場所になくてもその在かが分かるようにしておく。適正在庫を保ち欠品による支障がないように工夫することも含まれる。

『清掃』とは、整理・整頓作業との関連で発生する清掃のこと。清掃しなくても済むようなことを考案することもこの中に含む。

以上を3 Sといってクルクル回すのであるが、清掃だけが強調されて、5 Sはソージの代名詞とされているのは全く心外である。

『清潔』には、文字どおりの物心両面を清潔にするという意味と、後一つは自主的に3 Sを回すという2つの意味がある。

『躰』はこの自主的活動を継続的に習慣づけられるようにすることだといわれている。

しかし著者は決められた（決めた）ルール即ち標準作業～仕事～を身につけるようにリーダーシップ

を発揮することだと指導している。従って躰という文字はふさわしくないので、躰という造語を使って説明している。まさに仕事を身につけるように努力することであり、そこにリーダーの存在価値が発揮される。

さて、5 Sの概要は以上のようなものであるが、導入展開の方法は10社10様である。やりたいようにやれるので、その神髄をつかんで成功している企業もあれば、やっても効果がないといってやめてしまっている企業も多い。

このような5 Sの取り組み方を見ていると正に日本的であることに気づく。我が国はよく模倣が得意と云われてきた。しかし昨今の国際標準の制定の潮流からみて、どうもこれは表現が違っていたと思う。我が国は仮に一つの製品を作るとそれをさらに改良していこうと努力に明け暮れる。しかし欧米諸国ではこのような芸当はできないのである。一つ一つ約束事を決めてこれを守らせなければうまく仕事はかどらない。多民族国家ではアウンの呼吸は通じない。文書化しその改訂に明け暮れる。

我が国はこの約束事をきめるのが下手である。従って海外でこの種のものが開発されると競って導入したがる。CS経営やTQM、極近のサプライチェーンマネジメント等々、逆輸入品をみているとそのように思われる。5 S活動も一度海外に出て規準化されて装いを新たにして再上陸するかもしれない。その時に飛びついたのではもう遅い。企業の根底から全く立ち遅れてしまうと思う。国内でも国際的にもアンカーを務めることになるだろう。何故ならば5 Sはテクニックではなく経営の基本であるからである。

さらに付け加えたい。5 Sは万能薬ではない。5 Sで培った基盤の上で会員各位のコンサルティングのご活躍があると、一層の輝きを増すものと確信している。クライアント企業に5 S活動をしっかりと根付かせてほしいものである。

第25回技術士全国大会（新潟）に参加

岡部 九州生（福岡・農業）

平成10年9月2～3日に新潟で開催された第25回技術士全国大会に参加した。出発は9月1日、ANA 325便で福岡発。新潟に着いて「ホテル新潟」に宿泊（3泊4日）

1. 視察見学会参加（9月2日）

- (1) 新潟市民芸術文化会館
- (2) ふるさと村
- (3) 東新潟火力発電所
- (4) 新潟プラスチック油化センター

2. 臨時農業部会出席（9月2日夕方）

新潟市東堀前通9番地「大善」で農業部会懇親会が15名の参加で開かれた。なお当日は亀田郷土地改良区の現地視察が行われている。

3. 分科会（9月3日 10:00～14:40）

第1分科会：人類の共存をめざす知恵をもとめて
座長 高島 清

第2分科会：地方拠点の整備

座長 大家 健

第3分科会：地域の国際交流「日本海からの発信」

北東アジア大交流時代に向けて

座長 奥村 俊二

片岡 廣夫

第4分科会：自営技術士の経営と今後の在り方

座長 星野 昭平

矢崎 方直

第3分科会に参加、活発な討論が行われた。

4. 記念講演（9月3日 15:00～17:00）

ガンを中心に最近の医療技術について

ーガンを救う「鍵」はどこにあるのかー

新潟大学医学部放射線医学教室 教授

新潟大学医学部付属病院 院長

酒井 邦夫氏

5. 記念式典（9月3日 17:10～18:10）

第25回技術士全国大会 大会宣言

私たち技術士は

大会テーマ「人類の共存をめざす知恵をもとめて」にのっとり

地域環境を守り

人類が等しく豊かで文化的な生活を享受できる日を目指し

一層の科学技術の開発と研鑽に励むことをここで宣言します

平成10年9月3日

北陸支部青年技術士代表 土橋 佳代

参加者一同

全国から300名を超える技術士が参集し、盛大な大会が挙行された。引き続いての懇親会も郷土色豊かに、賑やかに開催された。

6. 研修旅行（9月4日～）

(1) Aコース：日帰り

越後豪農の館めぐり

(2) Bコース：1泊2日

越後豪農の館めぐりと閑静な月岡の宿

(3) Cコース：1泊2日

良寛の足跡を訪ねて

(4) Dコース：1泊2日

越後、そして関係深い会津・米沢の歴史探訪

(5) Eコース：2泊3日

佐渡の旅情にふれて

佐渡めぐりに参加。その後、9月6日、ANA 326便にて福岡に帰った。



記念式典

「佐渡」の旅情にふれて

平岡 輝夫 (宮崎・建設)

天高く、みのりの秋を迎え、その取り入れに、額に汗して、ますますご健笑に、ご笑進の御事と拝察申し上げます。ただし、東北・北関東・北陸の地方では水害を被り、その復旧作業に日夜懸命の御事でしょう。

さて、第25回技術士全国大会(新潟大会)では大変お世話さまに相成り、衷心より感謝申し上げます。新潟のご縁で、生れて初めての「佐渡」訪問で、ぜひ話の種を一つ増したいものと、行く前から胸がワクワクして居りました。第1日目(4日)は、佐渡北端の「賽の河原」に参拝。親御さんの子供に対する愛情の玩具や赤い風車がやたらと目に付き熱い血潮が込み上げる……合掌。夜は民宿「すだれ荘」に一泊。飲む程に酔う程に、話が佳境に入り、自分が極楽浄土に居るような錯覚に陥り、後は自河夜船。翌5日は尖閣湾を回遊し、その奇想天外な絶景に思わず息をのんだ。ヤッパリ海はイイナー。

偶然にも、トライアスロン世界選手権佐渡大会に遭遇し、その応援に感動を覚えた。

アルコール共和国「真野鶴酒造」を訪れ、見学より試飲の方に熱が入り、フラフラした足取りで佐渡金山に入り、往時をしのんだ。今夜は「佐渡

温泉」相川ホテル大佐渡という事で心が弾む。18時頃太陽が佐渡の海に沈み始めた。その壮観なこと筆舌の能くするところではない。夜にはホテルの庭で「佐渡おけさ」の踊りと、相川音頭に打ち興ずる。お陰さまで「おけさ相好会」より佐渡おけさの踊りの「修得証」を頂いた。職場はもとより子々孫々に到るまで語り告ぎましょう!!

最終日(6日)は小木の「たらい舟」である。地元では「ハンギリ」と呼ばれ櫓で横8文字を描くようにして操つる。待つこと1時間弱(一寸オーバーかな)タライに乗って遊ぶこと数分で幕となった。これで佐渡ともお別れである。帰路両津→新潟までジェットフォイルで1時間でサヨナラ!

本当にお世話になりました。大会実行委員長、中山輝也先生を始め新潟の各技術士の先生方に、何と御礼を申し上げて良いやら解りませんが、衷心より感謝の意を捧げます。

来年は、岡山の吉備ダンゴの桃太郎さんのふるさとの由、今度は酒の辛口より甘口に!

季節の変わり目、心に光りをつけて健体康心で明るく爽やかに、笑顔で楽しく、澆刺人生を送りましょう!!

感謝合笑

(平成10年9月吉寅)

トピックス

ノイズの効用

理事 矢野 友厚

日本技術士会東北支部四戸理事からの斬新な情報を紹介します。

「ここまできた地震予知」即ち地震予兆電磁ノイズ検出ネットワークの構築によるもので、兵庫県南部地震について前兆のデータが発表されていて、相当に確率の高い予兆現象であることが示されている。

ラジオは、地震の元となる岩盤がズレる時に発生するこのような電磁波を雑音として迷惑がり排除するが、こちらはノイズを有難く拾う言わば「逆ラジオ」という装置である。

一般に人工ノイズは、複数箇所ですべて同時に発生する可能性が極めて低いことから、数km以上離れた2~3ヶ所のデータを突き合せて、1秒以内に同時発生したと思われるものを「自然界ノイズ」として捉える「同時刻同定」方式を採用している。

現在、東京都の6ヶ所と、保谷市、静岡県裾野市の8ヶ所で24時間体勢で観測が行われており、最終的には2,000ヶ所を目標としているが、取りあえず100ヶ所あれば大地震発生の1~2日前に警告が出せるので、必ずや貴重な人命を救うことができるであろう。

パソコンを含めても1ヶ所40万円程度ですむので、早急に全国ネットを構築したいものである。

[1997・12・9 新興技術研究所 代表取締役
熊谷 卓技術士発表のデータより]

会員ニュース

☆(社)日本技術士会(九州支部)入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段:連絡先/下段:勤務先) ＜連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ＞		
熊 本	正会員	加来 雄一	建設	〒868-0072 人吉市西間下町181-1 勤:熊本県人吉土木事務所	☎(0966)24-1004 ☎(0966)24-4111	FAX(0966)24-8170
鹿児島	正会員	小川 常行	衛生工学	〒890-0054 鹿児島市荒田1-10-20-301 勤:(株)九電工鹿児島支店	☎(099)256-2384 ☎(099)256-2166	FAX(099)251-0762
大 分	正会員	田中 英記	金属	〒870-1168 大分市松ヶ丘19-10 勤:田中技術士事務所	☎(097)541-6600	
福 岡	正会員	小宮 信行	水道	〒819-0054 福岡市西区上山門3-16-62 勤:富洋設計(株)九州支社	☎(092)891-2117 ☎(092)781-0336	FAX(092)781-8348
福 岡	正会員	後藤 正行	建設	〒811-3213 福岡県宗像郡福岡町4168 勤:日本建設コンサルタント(株)九州支店	☎(092)411-1788	☎FAX(0940)42-0430 FAX(092)411-1610
長 崎	正会員	田中 省二	建設	〒857-0876 佐世保市塩浜町7-10 勤:(株)タナカ総合環境設計	☎(0956)22-5665	☎(0956)25-8683 FAX(0956)23-8218
福 岡	正会員	吉本 豊彦	建設	〒818-0034 筑紫野市美しが丘南6-4-63 勤:(株)熊谷組九州支店	☎(092)926-6559 ☎(092)521-1401	FAX(092)533-1013
佐 賀	正会員	森 靖英	衛生工学	〒841-0205 佐賀県三養基郡基山町けやき台4-1-4 勤:(株)テクノ技研	☎(0942)92-1591 ☎(092)713-0033	FAX(092)713-9531
福 岡	正会員	天野 紀	建設	〒815-0075 福岡市南区長丘1-5-1-206 勤:パンフィックコンサルタンツ(株)九州支社	☎(092)885-5015	☎(092)551-8779 FAX(092)885-5003
福 岡	正会員	中野 卓朗	建設	〒814-0032 福岡市早良区小田部7-19-20-501 勤:パンフィックコンサルタンツ(株)九州支社	☎(092)885-5014	☎(092)847-8966 FAX(092)885-5006
北九州	正会員	坂井 繁雄	建設	〒815-0004 福岡市南区高木2-7-4-305 勤:大日本土木(株)北九州営業所	☎(092)472-6917 ☎(093)511-6906	
福 岡	正会員	久米田 一	建設	〒814-0123 福岡市城南区长尾5-11-17 勤:(株)熊谷組九州支店	☎(092)861-0634 ☎(092)521-1401	
福 岡	正会員	兼重 譲	建設	〒810-0024 福岡市中央区桜坂4-28-603 勤:(株)エステック	☎(092)531-5987 ☎(092)471-5171	FAX(092)471-5040
福 岡	準会員	田中 秀樹	建設	〒810-0033 福岡市中央区小笹5-22-37 勤:(株)建設技術研究所福岡支社	☎(092)771-8462 ☎(092)714-6226	
熊 本	準会員	舌間 末博	情報工学	〒869-0432 宇土市旭町296-3 勤:(株)パナファーム・ラボラトリーズ	☎(0964)23-5381 ☎(0964)23-5111	
福 岡	準会員	牧野 武人	建設	〒812-0061 福岡市東区筥松3-10-22-103 勤:九州大学工学部土木工学科在学中	☎(092)612-4301	

☆九州技術士センター 入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段:連絡先/下段:勤務先) ＜連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ＞		
福 岡	正会員	上林 武司	建設	〒816-0934 大野城市曙町2-1-18-602 勤:西松建設(株)	☎(092)583-6906 ☎(092)751-2269	FAX(092)751-2928
福 岡	正会員	内田 克己	建設	〒816-0933 大野城市瑞穂町1-2-20-301 勤:西松建設(株)	☎(092)771-3124	☎(092)593-9200 FAX(092)771-8596
福 岡	正会員	奥 英雄	建設	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4-11-6-301 勤:日本技術開発(株)福岡支店	☎(092)441-4344	☎(092)414-0179 FAX(092)441-4341
宮 崎	正会員	佐土原 馨	建設	〒880-0942 宮崎市生目台東4-23-9 勤:(株)共同技術コンサルタント	☎(0985)29-0240	☎(0985)51-8252 FAX(0985)24-8584
大 分	正会員	恒松 泉	建設	〒874-0016 別府市野田2組 勤:(株)建設コンサルタントサニー	☎(097)567-8600	☎(0977)66-5072 FAX(097)567-8611
宮 崎	正会員	瀬戸口章蔵	建設	〒880-0015 宮崎市大工2丁目39 勤:建設省宮崎工事事務所	☎(0985)24-8221	☎(0985)24-2374 FAX(0985)24-8258

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段：連絡先／下段：勤務先) ＜連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ＞		
宮 崎	正会員	園田 宣昭	建設	〒880-0841 宮崎市吉村町北原甲1465 勤：建設省宮崎工事事務所	☎(0985)24-8221	☎(0985)31-1816 FAX(0985)31-9363
福 岡	正会員	馬場 洋二	建設	〒818-0036 筑紫野市光ヶ丘 3-15-6 勤：(株)弓場水工コンサルタント福岡支店	☎(092)736-5363	☎(092)926-7211 FAX(092)736-5364

☆会員連絡先（住所）および勤務先変更

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門) (変更)	(上段：連絡先／下段：勤務先) ＜連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ＞		
福 岡	正会員	高橋 健二	建設	勤：〒810-0074 福岡市中央区大手門 3-4-3 東洋測量設計(株)福岡支店	☎(092)724-0191	FAX(092)724-0191
福 岡	正会員	竹中 幸生	建設	勤：〒810-8602 福岡市中央区薬院 3-16-3 (株)間組	☎(092)525-0733	FAX(092)531-4284
福 岡	正会員	江口 英治	水道	連：〒818-0068 筑紫野市石崎258-1		☎(092)925-9375
福 岡	正会員	森 将彦	建設	連：〒813-0043 福岡市東区名島 3-13-15		☎(092)663-4657
福 岡	正会員	北村 邦彦	衛生工学	連：〒810-0015 福岡市中央区那の川 2-6-40 ファミール平尾1106		
福 岡	正会員	井浦 敏彦	建設	勤：〒810-0064 福岡市中央区地行 2-1-4 ダイエーコンサルタント(株)福岡支店	☎(092)752-1785	FAX(092)724-7588
福 岡	正会員	田沼 和夫	建設	勤：〒807-0823 北九州市八幡西区折尾 3-1-14 福岡県北九州土木事務所	☎(093)691-2767	FAX(093)692-9479
大 分	正会員	安藤 宇一	林業	連：〒870-1132 大分市大字光吉字田口1138-1 ユースエイト301号 勤：森林開発公団大分出張所長		☎(097)569-1081 ☎(097)546-2873
宮 崎	正会員	山田 雅弘	農業	勤：〒880-0011 宮崎県上野町 2-41 日測コンサルタント(株)	☎(0985)29-0330	FAX(0985)37-0215
佐 賀	正会員	森田 昭廣	建設	勤：〒855-0866 島原市南下川尻町 7-4 建設省雲仙復興工事事務所	☎(0957)64-4171	FAX(0957)63-0914
沖 縄	正会員	長田 紀晃	建設	勤：〒900-0015 那覇市久茂地 1-2-20 (株)テトラ		☎(098)862-7223
中四国	準会員	野上 博光	建設	連：〒750-0085 下関市彦島田ノ首町 1-2-18		☎(0832)66-5356
大 分	準会員	曾根 好則	建設	連：〒878-0024 竹田市大字玉来625-8 トキワコーポ302号 勤：(株)豊西測量設計		☎(0974)63-1526
福 岡	正会員	松浦 元哉	建設	連：〒813-0043 福岡市東区名島 4-43-23		
福 岡	正会員	進 有三	水道	連：〒814-0112 福岡市城南區友丘 3-9-41		☎(092)866-4340
佐 賀	正会員	蒲生 文夫	建設	連：〒840-0017 佐賀市新郷本町19-21		☎(0952)29-0500
福 岡	正会員	寺地 守	建設	連：〒815-0033 福岡市南区大橋 3-31-22-602		☎(092)542-6716
福 岡	正会員	荒船 啓作	建設	連：〒810-0066 福岡市中央区鳥飼 2-5-54-701		☎(092)771-1960

☆社名変更・住所変更

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段：連絡先／下段：勤務先) ＜連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ＞		
賛助会員				〒883-0021 日向市大字財光寺377-1 新社名 (株)アップス 旧社名 (有)山下測量事務所		
賛助会員				〒839-0841 久留米市御井旗崎 1-3-4 (株)タイヨー設計	☎(0942)41-1717	FAX(0942)41-1720
福 岡	正会員	網谷 徹	建設	新社名 (株)日本ジオテック 旧社名 (株)日建エンジニアリング		

御協力いただいている 賛 助 会 員

〔福岡〕

日本工営(株)福岡支店
昭和地下工業(株)
第一復建(株)
(株)松本組
(株)エスケイエンジニアリング
(株)東亜コンサルタント
(株)福山コンサルタント
(株)東京建設コンサルタント九州支店
東亜建設技術(株)
精巧測量(株)福岡支店
東邦地下工機(株)
大成ジオテック(株)
末永コンサルタント(株)
富洋設計(株)九州支社
九州建設コンサルタント(株)福岡支店
応用地質(株)九州支社
日本海洋コンサルタント(株)
九州事務所
(株)サンコンサル
芳野測量設計(株)
(株)橋梁コンサルタント福岡支社
(株)アイ・エヌ・エー九州支店
(株)九州地質コンサルタント
(株)タイヨー設計
三井共同建設コンサルタント(株)
九州支社
日鉄鉱山コンサルタント(株)九州支店
(株)大建
(株)エム・ケー・コンサルタント
(株)エス・ピー・エンジニアリング
(株)アジア建設コンサルタント
新地研工業(株)
(株)カミナガ
(株)構造技術センター
平和測量設計(株)
基礎地盤コンサルタンツ(株)九州支社
(株)高崎総合コンサルタント
西日本コントラクト(株)
(株)マエダ九州支社
西鉄シーイーコンサルタント(株)
町田電気管理・技術士事務所
日本地研(株)
(株)第一設計事務所

九州環境技術研究所

西日本技術開発(株)

(株)富士ピーエス

日本技術開発(株)

〔北九州〕

(株)吾水総合コンサルタント

九和設計(株)

(株)都市開発コンサルタント

九州テクノリサーチ(株)

第一復建(株)北九州事務所

(株)松尾設計

(株)酒見設計

(株)太平設計

冷牟田設計コンサルタント(株)

土居工業(株)

山九(株)鉄鋼事業本部鉄鋼技術部

環境テクノス(株)

(株)日鉄エレクトックス

(株)北九州環境整備協会

(株)安川電機

〔佐賀〕

(株)精工コンサルタント

新九州測量設計(株)

日本建設技術(株)

(株)九州構造設計

西日本総合コンサルタント(株)

新栄地研(株)

フジコンサルタント(株)

九州技術開発(株)

〔長崎〕

大栄開発(株)

西日本菱重興産(株)

太洋技研(株)

(株)親和テクノ

扇精光(株)

西海地研(株)

(有)メジャーコンサルタント

〔熊本〕

(株)九州開発エンジニアリング

〔大分〕

佐伯調査測量設計(株)

松本技術コンサルタント(株)

協同エンジニアリング(株)

(株)日建コンサルト

東亜コンサルタント(株)

(株)弓場水工コンサルタント

(株)テクノコンサルタント

南海測量設計(株)

九州特殊土木(株)

大洋測量設計(株)

九州建設コンサルタント(株)

西日本コンサルタント(株)

南武測量設計(株)

東洋測量設計(株)

九州建設(株)

〔宮崎〕

(株)国土地質調査事務所

南日本総合コンサルタント(株)

(株)宮崎産業開発

(株)西田技術開発コンサルタント

(株)共和コンサルタンツ

(有)福島測量設計調査事務所

九州工営(株)

(有)久保測量設計コンサルタント

正栄技術コンサルタント(株)

(株)東九州コンサルタント

(有)日豊測量設計事務所

日測コンサルタント(株)

(株)水理設計

(株)ダイワコンサルタント

(株)杉田測量設計コンサルタント

(株)ジオセンターM

(株)都南開発コンサルタント

(株)アップス

〔鹿児島〕

朝日開発コンサルタンツ(株)

小枚建設(株)

(株)久永コンサルタント

コーアツ工業(株)

大協(株)

新和技術コンサルタント(株)

(株)中村測量設計

(株)日峰測地

(株)大紀造園設計事務所

お知らせ

九州支部インターネット

12月1日開設

* (社) 日本技術士会九州支部

<http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer>
これが九州支部のホームページのURLです。

* 九州支部事務局のE-mailは

engineer@joho-fukuoka.or.jp です。

今年の春以来、情報化推進小委員会で準備を進めてきた九州支部のインターネットは、支部事務局のハードを拠点として、去る12月1日に開設しました。プロバイダーは(財)福岡県企業振興公社福岡県中小企

業情報センター。独自のホームページも登録しています。もちろんこれは初版で、完全とはいえませんが、次ぎつぎに改善していくつもりです。

当面、ホームページ、E-mailの管理は委員メンバーが随時担当することになっています。またホームページ運用については作成、登録、更新、運用、会員との情報交換などの規則を、支部の「運用規定」として決めました。これに則して正しい運用管理をしていこうと考えています。

またインターネット講習会が4回開かれて好評。約40名が参加されました。希望者がまとまればさらに開催します。ご希望の方は田中総務委員長までご連絡ください。受講料は無料。講師はNTTマルチメディアセンターの方です。 [広報委員会]

会誌“技術士”最近の主要目次

平成10年9月号

- ・巻頭言 専務理事・事務局長就任にあたって／堀内純夫
- ・ミニ特集「環境化学と先端技術」
21世紀にむかって環境化学は／植村勝
我が国エネルギー事情と環境対応／鹿島実
地球環境と機能性高分子／坂本国輔
ニューセラミックスにニューはあるか／五十石清
香料物質工業と快適環境／湖上国雄
生活関連機器用環境触媒の活躍／西野敦
- ・中華人民共和国の技術者資格制度／済木幸平

平成10年10月号

- ・巻頭言 技術の顔を探す／小平祐
- ・ある技術コンサルタントの生き方と技術移転／田代日出夫
- ・新素材の応用開発－横浜市における企業の技術開発のパートナーづくり／福嶋英二
- ・排泄が保証されてこそ快適なフライトが／松並壮
- ・放棄田の分布と地すべりとの関係／岩永伸

平成10年11月号

- ・巻頭言 農業技術の社会への貢献／谷山重孝
- ・ISO 14001 に関する一考察／蜂須賀邦雄
- ・科学技術庁長官賞受賞について／茶木英一
- ・職業能力開発と技術士／中西登志夫
- ・日本の食品関連産業について考える／佐藤正忠
- ・全国の技術士が一つの団体に／久保田信一

編集後記

平成10年「冬季号」をお届けします。早いもので今年もすぐ終わります。晩秋になっても暖かい日が多くて、一年中おかしな陽気の年でした。また不景気のドン底を這い廻りながらの年でもありました。来年はすこしはまともになるでしょうか。なって欲しいと思います。そして活きのいい技術士の仕事が増えて欲しいと思います。

この「技術士だより」には、行事や会合の報告に加えて、「巻頭言」「私の提言」「地域活動」「声の広場」「知識の窓」などなど、それぞれ貴重な原稿をいただきました。このなかから“活きのいい技術士”を映しだしていただければ幸いです。

これからもますます活きのいい「技術士だより」にしていきたいと思っています。なんでも結構です。みなさんの活いきした原稿を、気軽にお送りください。お待ちしております。

どうぞよい年をお迎えください。 (完戸)

発行：(社)日本技術士会九州支部
九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1
(シック博多駅前ビル204)

九州支部： ☎ (092)432-4441

Fax(092)432-4442

E-mail: engineer@joho-fukuoka.or.jp

センター： ☎/Fax(092)432-4443

印刷：(株)川島弘文社